

# 県外派遣 参加報告書



## 第 32 回都道府県対抗 ジュニアバスケットボール大会 2019



# JUNIOR ALL STAR



第32回 都道府県対抗

## ジュニア バスケットボール大会 2019

2019.3.28 - 30

キミたちには、  
可能性しかない。



Junior  
Basketball  
Championship  
2019

BASKET  
BALL  
play for victory!

2019.3.28 - 30

2019

ジュニアバスケットボール大会

2019

play for victory!

BASKET  
BALL  
play for victory!

報告者 中体連 川井 剛

## ○会場 武蔵野の森スポーツプラザ 他

## ○日程

3月26日（火）：移動日

3月27日（水）：審判研修会及び審判会議（武蔵野の森スポーツプラザ）

| 日程     | 内容           | 講師       | 備考                |
|--------|--------------|----------|-------------------|
| 9：30～  | 受付           |          |                   |
| 10：00～ | インテグリティーについて | 宇田川 貴生 氏 | JBAより配信されたデータをもとに |
| 10：15～ | 座学研修         | 漆間 大吾 氏  |                   |
| 12：15～ | 座学研修終了       |          |                   |
| 13：00～ | モデルゲーム開始     | 下記参照     |                   |
| 17：00～ | モデルゲーム終了     |          |                   |
| 17：30～ | 審判会議         |          | サブアリーナ            |
| 18：30  | 会議終了後解散      |          |                   |

3月28日（木）：予選リーグ（各会場にて）

3月29日（金）：男女決勝トーナメント2回戦まで（武蔵野の森スポーツプラザ）

3月30日（土）：男女準決勝・男女決勝（不参加）

## ○研修会の内容

### 【インテグリティーについて】・・・

宇田川氏より、先日JBAから配信されたインテグリティーについて説明があった。『誠実さ、真摯さ、高潔さ』という大きなテーマのもと、バスケットボールの価値をプレイヤーもコーチもレフリーも観客も全員で高めようということで、本大会と全ミニで先行実施となったこと。また、プレイコーリングガイドラインに則って、触れ合いに対するファウルと同じように振る舞いに対するファウルも普通に取り上げていくという方向性を説明していただいた。

このような形で進んでいくにあたり、スポーツ界における不祥事問題が背景にあり、スポーツに携わる私たち全員で協力して実現させていくものであると改めて感じた。「**私たちは違反したものを裁く裁判官や取り締まりをする警察官ではない**」とも宇田川氏がおっしゃっていた。スポーツに携わる者一人一人がより人間力を高め、お互いをリスペクトし、『クリーンバスケット、クリーンザゲーム』を実現していくものだと分かった。

### 【座学講習】・・・別紙参照

【 モデルゲーム 】・・・

講師 Aコート : 阿部 聖 氏 長谷川 裕 氏  
Bコート : 平出 剛 氏 御手洗 亮 氏  
Cコート : 和嶋 陽一 氏 山内 正隆 氏  
Dコート : 福岡 敏徳 氏 東條 輝正 氏

【 モデルゲームの実際 】・・・ 3PO (高校生チームでのモデルゲーム)

- ・研修生を3人ずつに組分けをし、それぞれのグループを講師の方が見てくださりゲーム後の振り返りをする。
- ・1Q (8分) - (2分) - 3Q (8分) ※タイムアウトは1回ずつ

【 割り当てゲーム 】・・・ **Dコート第5ゲーム 玉川大② - 日大豊山**

クルー: CC 中村氏 (青森A) U1 川井 U2 豊島(東京)

PGC

- ・漆間氏がおっしゃっていた、積極的なローテーション
- ・大学生と高校生なのでフィジカルがどうか
- ・センターライン付近でのトラップ対応について
- ・最終ゲームで疲れもあるだろうからケガがないように

実際

協力して、アイコンタクトを取りながらゲームを進めることができた。ローテーションが重たくなりスムーズにいかない場面があった。個人的には、プロテクトシューターとしてとらえたものについて、検証が必要だと感じた。

MTG

主任 東條 氏 (東京S)

- ・大きくは何事もなく進んでいったゲーム
- ・POCを明確にするとよい。プロテクトシューターのケースであれば、プッシングがよかったのでは？
- ・ローテーションをそこまで起こさないといけないような場面が多かったわけではないので、重たかった印象は持たなかった

## ○3月28日(木) 予選リーグ 浦安市運動公園総合体育館 女子Mリーグ

長崎 - 高知 CC:川井 U:岩瀬(千葉)

### PGC

- ・第一試合を一緒に観戦し、長崎のプレイの傾向を把握
- ・ハーフタイムのアップとパンフレットから高知の特徴を把握
- ・2P0の基本的なメカニクス。リードが渡るべきケースの確認
- ・クロックを含めたT0管理
- ・協力を求める場面の確認

### 実際

- ・立ち上がりから長崎のペースで試合が進行
- ・大きな現象はなく、スムーズに進行した
- ・**インテグリティに抵触するような発言が数回**見られ、FTの際にコーチとコミュニケーションを図った。コーチ自身も気づかれていた様子で、ゲーム後にもお話に来てくださった。

### MTG

主任 穂川 氏(群馬A)

- ・大きなトラブル等もなく進行した
- ・2P0ではもっと細かくポジションを変えながらアジャストしていく必要がある。例えば、リードで3番エリアと4番エリア付近にボールがある際は、もっとワイドに開いて見た方がいい。トレイル側から始まるドライブに対して、最後のアングルを捉えるために顔が動くので、半歩でもいいからズレるとよい。
- ・コーチとコミュニケーションをとっていた件に関して。  
選手への振る舞いのファウルを取り上げることが難しい。
- ・L2Mのシチュエーションでクロックが流れてしまった際、気づいていたならもっと早く止めても良い。クロック管理ができてるのは◎

○3月28日(木) 予選リーグ 浦安市運動公園総合体育館 男子Aリーグ

岐阜 - 新潟 CC:川井 U:山田(富山)

PGC

- ・新潟が1勝、岐阜が1敗で、このゲームにかけている思い
- ・両チームの特徴を確認
- ・スクリーンプレイの見方
- ・2POでスポットになりがちな場面の確認

実際

- ・前半はととても競った中で進行
- ・最後まで岐阜のベンチや選手にストレスを与えてしまったゲームだった
- ・岐阜のショットに絡む部分が鳴らせなく、ストレスをためさせてしまった。

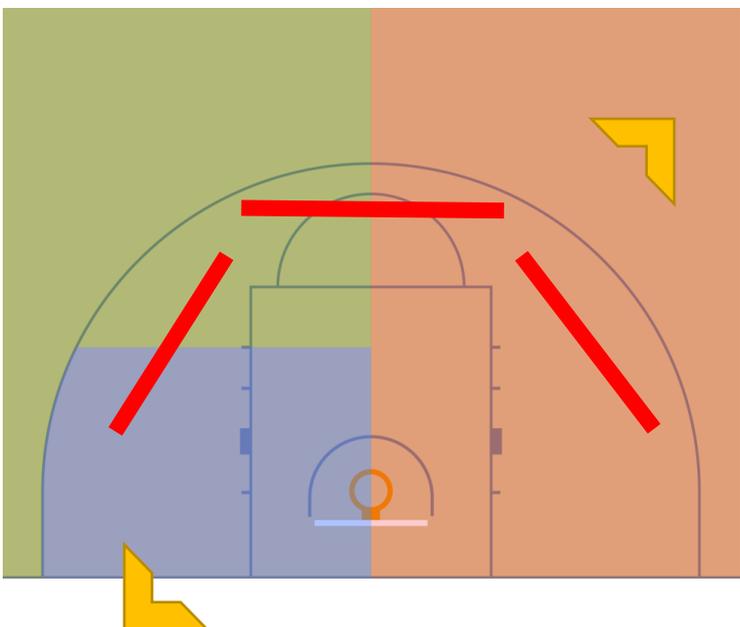
MTG

主任 和嶋 氏(東京S)

チームも選手も審判もみんなが一生懸命になって一つのゲームを成立させようと頑張っていた。しかし、何かスッキリしない。

スッキリしない原因は??

- ・ **始まりを大事に**→トスアップ後、自分の後ろにボールが飛び、ラインぎりぎり  
で選手がとったのだが、実はラインを出ていた
- ・ **エースの選手**が(岐阜の5番) やられたらチームのフラストレーションになる
- ・ **ハイポスト付近、エルボー付近のエリアで起こるショットに対するアングルの  
取り方**
- ・ どこが接触したからファウルなのか、説明ができるか
- ・ 100%ファウルではありません!! または、ここにこのように触れ合いがあり、  
このように崩れました! とか、ジャンプシュートをした選手が着地する位置に  
遅れて入りました、など、**シンプルな言葉で説明**できるか
- ・ トレイルの立ち位置、体の向きが本当にそうでないといけないのか



- ・ 左図の**赤線**のような場所での**ジャンプショット**をどのように捉えるか
- ・ 上記にあるように100%と言い切るためのポジションはどこか
- ・ このゲームを通して、Tの位置、体の向きが本当にそれでいいのかと感じた
- ・ どの選手がキーで、その選手がどんなプレイをする傾向があるか把握
- ・ その時に最適なポジションに一歩早く入って待ち構える

## ○3月29日（金）決勝トーナメント 武蔵野の森スポーツプラザ 女子1回戦

京都 - 宮城 CC：坂（茨城A） U1：川井 U2：成田（神奈川）

### PGC

- ・両チームの特徴、予選リーグでの様子など
- ・ベーシックなメカニクス
- ・クルーワーク、協力をする場面の確認
- ・プレイコーリングについて（UFの際は集まって確認）

### 実際

それぞれのエリアで責任をもって判定を重ねていくことができた。

3PにCCの坂さんより、ゲームのテンポが変わってきたからというお話をいただいたが、上手く整理をすることが出来ず、マージナルなものを取り上げたり相手エリアのものを取り上げたりしてしまった。

### MTG 主任 阿部 氏（北海道S）

- ・Lのローテーション中～**オリジナルCに任せるべきプレイ**
- ・LGP イリーガル or マージナル or ノーフアウル の見極め



青のドライブに対する白の接触  
Lはローテーション完了直後  
ローテーション中はペイントをスキャンしていた  
この1 on 1を初めから終わりまでより長く捉えているのは→**T**  
ここでLがシングルでブロッキングをコールしてしまった  
Tに任せるべきプレイ



白のドライブプレイ  
青6とのマッチアップのケース  
接触を起こしたのは青6の裏より飛び出してきたヘルプのディフェンス  
この接触をTがシングルでコール  
しかし、このヘルプディフェンスの入り方を初めから終わりまでより長く捉えているのは→**L**  
Lに任せるべきプレイ

○3月29日（金）決勝トーナメント 武蔵野の森スポーツプラザ 男子1回戦

愛媛 - 奈良 CC：阿部（北海道S） U1：川井 U2：本部（宮崎）

PGC

- ・ トップリーグツールより、オンコートで求められるものを確認
- ・ ベーシックなメカニクス、各ポジションの役割
- ・ ローテーションのフェイズ
- ・ 共通理解事項（OBB訂正、クロック、FTシューター、ファウルカウント）

実際

CCの阿部さんが終始目を配ってくださり安心してゲームに臨めた  
FTシューターの確保をできていないときがあった  
EOQの場面でクルー間で相違があったが修正できた

MTG

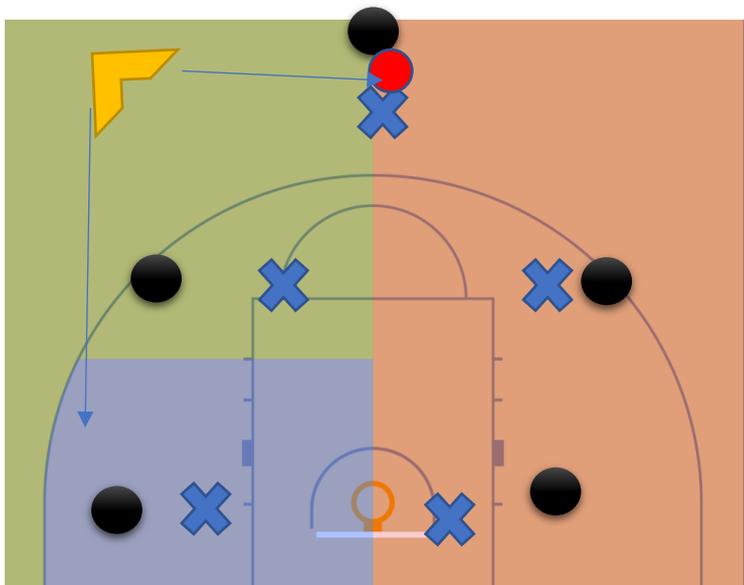
主任 坂 氏（茨城A）

- ・ 3人でのアイコンタクトがよく見られ、関係性がよいことが分かった
- ・ Cからの良いコールがたくさんあり、良かった
- ・ 終盤にチープなもの、鳴らさなくてもいいものが出て、もったいない

阿部 氏

- ・ **吹き急がない**、もっと**形ができてから**でも良い
- ・ 分からないものは分からないのだから**無理して決着をつけない**
- ・ プレゼンなどはこだわって良くできているので、吹くものを精査する

宇田川氏・Tの見方について

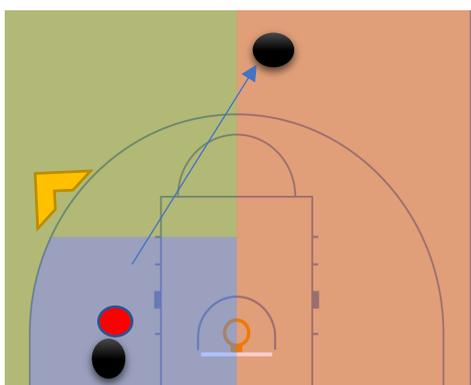


このようなケースでTにいるときにあまりにもボールを横目で見すぎて

いる。  
これでは、Cが少し不安になってしまうことにつながる。

3POの良さは**役割分担**がしっかりできることなので、この場合のTはもっとボールを捉える体の向きでよい。

もしこれでSCなどに来るなら、その時に工夫をする



また、このようなシチュエーションでポストからトップのCサイドにボールが展開された際にTはどうか。多くの人が、一度下げたレベルを保っているが、この場合は、まだローテーションも開始されていないので、**Tがもう一度レベルを上げてつかまえに行かなくてはならない**。

## ○全体を通して

今回参加させていただいて感じたことは、大きく以下の3点です。

1点目は、プライマリーエリア、プライマリーアングルについてです。まだまだ自分自身の理解が足りていないことを実感しました。2人、または3人で審判をする中で、自分が見るべきもの、捉えるべきものをまずは自分自身が明確にできないといけないと感じました。その上で、カンファレンス等でクルーと共通理解を図ること。そうすることが、良い判定につながり、ミスが減らすことにつながるのだと痛感しました。

2点目は、イリーガルかマージナルかの理解です。触れ合いの事実のみで判定をすることがまだまだ多かったです。長くプレイを捉え、判定の根拠をしっかりとをもって、落ち着いてコールできるように、また自身の映像を振り返りたいです。

3点目は、研修会の中で漆間氏が言われたことですが、**言い訳をしない**、ということです。**判定できなかった言い訳を**、「自分のエリアじゃなかったから・・・」「アングルが悪くて・・・」と、**メカニクスのせいにして**いた自分がどこかにいました。しかし、それでは自分自身の成長にはつながりません。自分のできなさを自分で一番理解して、そこからどう壁を破っていくのか、そのプロセスを今一度大切にしたいと感じました。言い訳をせずに、次はどうすればよいか、同じミスをしないためには何に気を付けるか、分析をして次につなげられるように、人間力を高めたいと思いました。

今回、2日間で4ゲームの割り当てをいただきました。また、中体連所属ではない方々も今回から多く参加され、大変刺激になりました。大きな変革期にあるバスケットボール界において、様々な変化が起こります。変化に敏感に、そして、研修会でも言われたように進化していけるように今後も精進します。

最後になりましたが、講師の方々をはじめ運営をくださった関東ブロックの方々、このようなチャンスをくださった県協会の方々に心から感謝申し上げ、本大会の報告とさせていただきます。